

くり返し 考えさせる 進路指導

生徒が高い志と目的意識を持って人生を歩んでいくために進路指導ですべきことは何か。
長年進路指導に携わってきた教師による座談会と学校事例を基に考える。

高校で
進路学習を
経験した
卒業生の声

進路指導から得たものは、「進路の方向性」でもなければ「特定の学問への興味関心」でもない。進路を考える、いわば「癖」だ。誰もが共有するゴールがない中で、自分の「ゴール」を必死になって探そうとする態度である。高校時代に自分の進路を真剣に考えた人であれば、自分がどう生きるべきなのか、自分が何に適性があるのか、常に考えながら生きていくことが出来るだろう。

栃木県私立A高校の
進路学習の感想文より（抜粋）

1 「進学指導」から「進路指導」へ

【VIEW21】2006年10月号特集】

1970年代から80年代前半

共通一次試験の導入

学習指導要領に沿って到達度を測る共通一次試験の導入により「一斉指導」が可能となる。
一方で、大学の序列化・入試の輪切りが起り始める

1980年代半ばから90年代前半

大学入試センター試験の導入

私立大のセンター試験利用、教科・科目の「アラカルト方式」が採用される。入試に関係ない教科・科目を勉強しない生徒が増加。志願倍率が上がり、偏差値を軸にした指導が行われる

1990年代後半から現在

大学全入時代の到来

大学入試だけでは学習の動機付けとして機能しにくくなる。2003年度導入の「総合的な学習の時間」などにより大学進学後も視野に入れ、自分自身の生き方を考えさせる指導が行われ始める

2 進路指導でくり返し「考えさせる」意義

【座談会 P.6】

自分の可能性を広げるために
勉強が必要だと気付かせること

栃木県・私立文星芸術大学附属高校 **牧島勝利**先生



結論が出なくても、悩んで考え抜く経験を
することで自立につなげること

三重県立神戸高校 **鈴木達哉**先生



「志」のために「無理」ができ、
社会で生き抜いていく力を育てること

鹿児島県立川内高校 **藤崎恭一**先生



3 生徒にくり返し「考えさせる」ための工夫

秋田県立能代高校

【P.10】

- ◎「ライフプラン」と「志望理由書」で「志」を高く持たせる
- ◎書くことと対話を繰り返し、自分と向き合わせる

埼玉県立不動岡高校

【P.13】

- ◎ディベートを通じて、「知識のすそ野」を広げる
- ◎集大成として行う個人研究で「知の総合化」を目指す